

安全啓発の手引



一般社団法人 千葉県子ども会育成連合会

も く じ

第 1 章

- ① 「安全啓発の手引」刊行について・・・ 1-1
- ② 安全能力を高めるために！・・・ 1-2
- ③ 潜在危険って？・・・ 1-3
- ④ 子ども会KYT・・・ 1-5
- ⑤ 危険予知トレーニングシート・・・ 1-13
- ⑥ 指導者・育成者の心得・・・ 1-19
- ⑦ 活動のチェックポイント・・・ 1-22
- ⑧ 応急措置の心得・・・ 1-24
- ⑨ 事故が起きた時に・・・ 1-35
- ⑩ 安全のための心得・・・ 1-36

第 2 章

- ⑪ 『安全共済会』加入のご案内・・・ 2-1
- ⑫ 子ども会賠償責任保険のあらまし・・・ 2-6
- ⑬ 全国子ども会安共済会Q&A・・・ 2-11
- ⑭ 子ども会賠償責任保険Q&A・・・ 2-15
- ⑮ 安全カードを活用しましょう・・・ 2-20
- ⑯ 支部別市町村区域割図・・・ 2-21
- ⑰ 編集後記・・・ 2-22

資料編

過去の千葉県子ども会の事故発生状況

履歴

「安全啓発の手引」刊行について

～事故の無い子ども会活動のために～

子ども会活動を通じて安全能力を培うことも育成者の願いです。この願いを達成するためには、子どもたちと一緒に計画して、子ども会活動を進めることが重要です。

それは、大人と子どもと一緒に計画していく過程で、危ない状況を回避することができるからです。

小さな子がいることを考えてルールを決めたり、学年により取り組む内容を決めたりと工夫も生まれることでしょう。そして、事前に子ども会の指針である「子ども会KYT」を実施することもポイントです。

子ども会活動は、豊かな人生を送るための準備として、一人ひとりの子どもが、大切な成長期に用意した数々のプログラムを体験することで、たくさんの『知恵』をつけていただき、子ども会活動で培った力を社会で大いに発揮することを目標としています。

本書は、県子連安全指導部が中心となり、子ども会活動の実態をとらえデータにしています。

活動での無事故を願い、たくましい子ども育成のため、是非ご活用くださいますようお願い申し上げます。

2019年2月吉日

千葉県子ども会育成連合会

安全能力を高めるために！

子ども会活動でなぜ、安全教育が必要なのでしょうか。子ども会の目的は、遊びを通して地域の異年齢の子ども、リーダー、育成者とともに自立し自律出来る子どもたち、その中で生き抜く力を身につけることです。事故を起こさないことにあるわけではありません。何もしないでじっとしていれば、事故や災害を受けることはないかもしれませんが、活動しない子ども会なんて存在しないし意味もありません。

安全教育の目的は、子どもたちが、自分たちの力によって安全を確保し行動していくことにあります。

そこで、子ども会で大切なことは、「〇〇は危ないからしてはだめ・・・」というのではなく、活動を通して安全能力を育成することであり、安全教育の目的は、この安全能力の向上にあるといえます。

子ども会では、子どもたちの心身の発育、発達状況を考慮して、種々のプログラムを用意し、子どもたちが活動に参加し、活動の中で自分の能力+ α の体験をすることで、それに対処する能力を養っていくように計画が立てられます。

目に見える危険はあらかじめ予測できますが、隠れている危険を予測することが非常に大切で、そのことを「潜在危険の予測」といいます。そのためには、日頃の活動の中で、子どもたちが安心して活動できるように慎重に考えなければなりません。

子どもたちが種々の行事に喜んで参加し、プログラムに積極的に挑戦し、それを克服、積み重ねることが安全能力を高めることとなります。

潜在危険って？

潜在危険とは、人間のおかれた環境・服装・行動・心身状態のうち、危険の可能性を内包していながら、人目につきにくい、隠れた危険状態をいいます。

◆キャンプ地……雨の後の浸水、ガケくずれ

体育館・ホール……床板の損傷、窓ガラス、カーテン、器具の損傷、釘・ネジなど

広場・グラウンド……ガラス、セトモノ、釘など

道路……交通量の多い場所でのハイキング、ウオークラリーなど

◆服装の潜在危険

サンダル履きでの参加……転倒などの原因

尖った装飾品……ケガの原因(自分や周りの人も)

肌の露出が多い……擦過傷やケガのリスクが高くなる

◆行動の潜在危険

単独行動……キャンプ、ハイキング、ウオークラリー

両手をズボンのポケットに入れて歩く

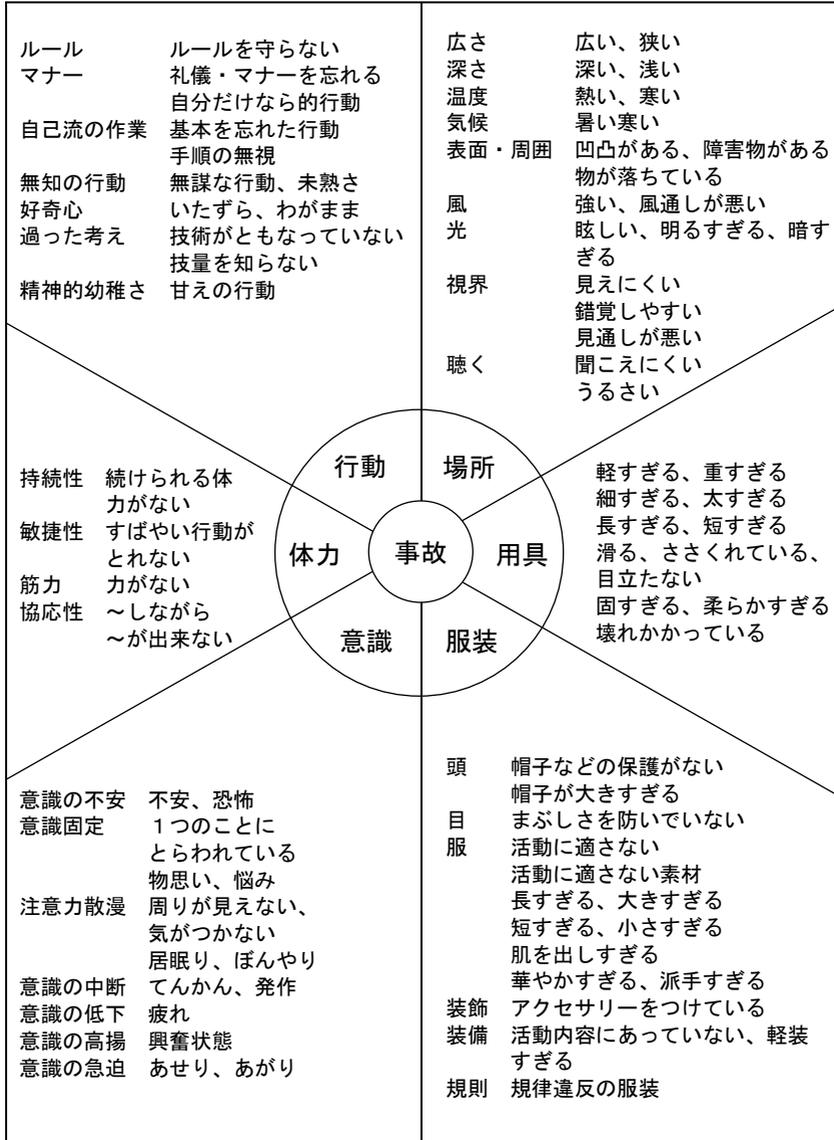
◆心身状態の潜在危険

健康状態を軽視した無理な行動

指導者・育成者の知識と経験の過信による不注意

自宅を出るときに叱られたとき……心がそこにはない場合など

潜在危険のチェックポイント



子ども会KYT

「潜在的な危険」を発見し安全に対する心構えを！

楽しい子ども会活動の中にも『危険』が隠れています。
事故防止には、『危険』を知ること、特に『潜在的な危険』を
発見し、安全に対する心構えをもっておくことが重要です。

1. 「KYT」とは

K(危険)Y(予知)T(トレーニング)の略です。

KYTは、自ら参加して、危険について考えることで、自らの
危険回避能力」を高めることができます。

2. KYTは簡単にできます
具体的な絵(資料)を見て、
みんなで話し合いながら
ゲーム感覚で危険を発見
し、その対策を考えます。



3. KYTを定着させましょう

育成者やジュニア・リーダー、インリーダーの中にKYT係を
設けるなどして、日々の活動の中で活用して下さい。

KYT(4ステップ)の進め方

1 グループ 6～10人で進めます。

1. 準備するもの(物品)

①イラストシート

A3版;グループ討議用,
各グループ1枚,

A4版;人数分
大型シート;全体用

②マーカー(フェルトペン)

グループに黒・赤各1本
危険項目記入用(黒)
ウェイト付け項目記入
用(赤)

③模造紙(B紙各グル ープ2枚ずつ)

1枚目(第1・2ステップ)
2枚目(第3・4ステップ)

④新聞紙(下敷き)* 机の汚れ防止

⑤セロテープかマグネット(発表の時に黒板にとめる)

⑥ホワイトボードなど

発表時に模造紙を止める

◎筆記用具(ボールペン等)* 必要に応じて



大型シート(全体用)

A3のシート(グループ用)

A4のシート(個人用)を用意

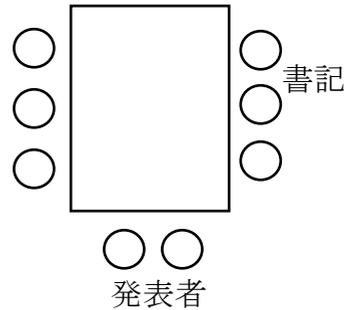
2. はじめにする作業

- (1) グループ分け(1グループ6~10人)
机を話し合いのしやすい配置にする
- (2) 自己紹介
- (3) リーダー, 発表者, 書記(記録者)を決める
- (4) グループ名を決める

リーダー
○ ○

3. KYTの準備作業

- (1) 模造紙を縦長にして4回折る。
(16等分・書きやすくする為)
- (2) テーマを記入する
- (3) グループ名・Noを上から横書き
に記入する



4. KYTの準備作業

- (1) 「テーマ」を記入する
- (2) 「グループ名・No」を
上から横書きに記入する

第1ステップ (危険の発見)

—どんな危険がかかっているか—

(3)メンバーは、危険なところを発見し発言する。

「〇〇が〇〇なので〇〇になる。」「〇〇が～して〇〇になる。」と発言する

必ず現象、原因、結果を具体的に発言する。

話し合いの進め方

ブレインストーミングの4原則

1. 他人の発言を批判しない。
2. 発言は質より量
3. 自由に発言
4. 他人のアイデアを加工して発言してよい

テーマ △△

○が○して〇〇になる

△が△して△△になる

×が×して××になる

書記はみんなの発言を
箇条書きにする

第2ステップ（特に重要なものを選び出す）

—これが危険のポイントだ—

- (1)リーダーは書かれた項目を①から順に読み上げて確認する。
- (2)特に「みんなの関心の高いもの、重大な事故の可能性のあるもの」に赤◎印をつける。
(1, 2項目にしぼり込む)。

ウェイト(重要性)順位:(1)命に危険を及ぼす
(2)重大事故につながる

特に重要なものを1. 2個選び◎をつける

みんなで野外炊事	グループ名・No1
1. ナタが放置してあるので、つまづいたり、転んだりしてケガをする	
◎ 2. ○○が○○して○○になる	
◎ 4. お鍋の運搬で、よそ見をしていて転んで、鍋をひっくり返してヤケドをする	

(3) 全員起立して◎印項目を指差しリーダーのリードで指差唱和する。

「危険のポイント××, ××, ヨシ!」と唱和する。

第3ステップ

—私ならこうする—(対策を考える)

(1) ◎印を付けた重要な危険要因に対して実行できる対策を出す。(ここからは2枚目)

1つの◎印に2~3の対策を考える。

2枚目の模造紙を用意する。

重要要因を書き写してそれぞれに対策を立てる

みんなで野外炊事	グループ名・No1
◎2. ○○が○○して○○になる	☞1ステップ②で選んだ
① 整理整頓をする	
② ○○をする	重要事項を書き出す

◎4. お鍋の運搬で、よそ見をされていて転んで、鍋をひっくり返してヤケドをする	
① お鍋の運搬はしっかりする	☞1それぞれに対
② ○○をする	策をたてる

「どうしたら予防、防止できるか」「私ならこうしよう」

「こうすることが必要だ」

第4ステップ（みんなで実行する行動目標を決める）

— 私たちはこうする —

(1) 「必ずしなければならないこと」を重点項目として決め○印をつける。

(2) ○印は1～2個程度とし、その項目をスローガン化し行動目標とする。

「～を～して～しよう」といった具合。

(3)グループ目標を全員で起立して指差し唱和する。

「〇〇を〇〇して〇〇しよう！！ヨッソ」

みんなで野外炊事	グループ名・No1
◎2. 〇〇が〇〇して〇〇になる	
① 整理整頓をする	
 ○	② 〇〇をする

◎4. お鍋の運搬で、よそ見をしていて転んで、鍋をひっくり返してヤケドをする	
 ○	① お鍋の運搬はしっかりする
② 〇〇をする	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; background-color: #e0e0e0;">グループの行動目標をスローガン化する 〇〇を〇〇して〇〇しよう！！</div>	

 全員で指差唱和

5. 発表

グループでまとめた事を発表する

大型シートで説明すると分かりやすい。

- (1)危険箇所、危険な行動と、特に危険とした項目を言う
 - (2)対策案を言う
 - (3)スローガンを言う
 - (4)スローガンを決めた理由を言う
 - (5)スローガンの指差唱和を全員で言う
- 発表終了(整列)

みんなで考えよう

応用予知トレーニングシート①

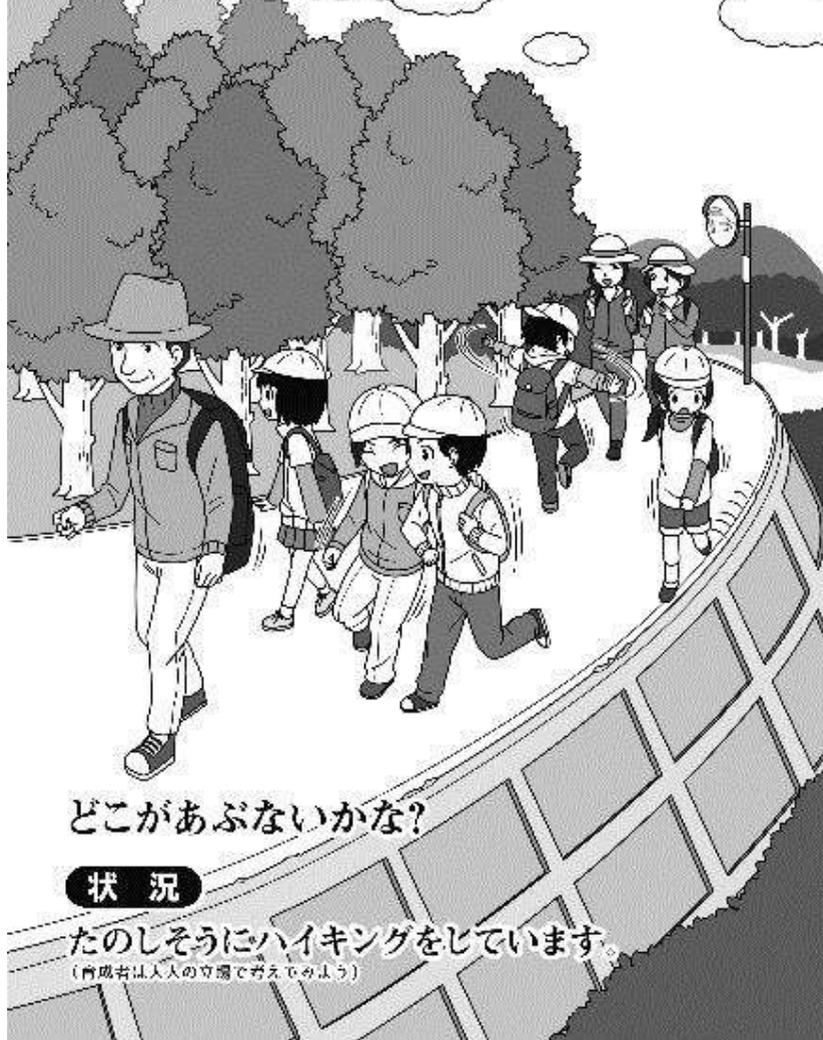


どこがあぶないかな？

状況

子ども会の集会が始まるのを待っています。

みんなで考えよう



どこがあぶないかな？

状況

たのしそうにハイキングをしています。

(参加者は人人の守護で考えよう)

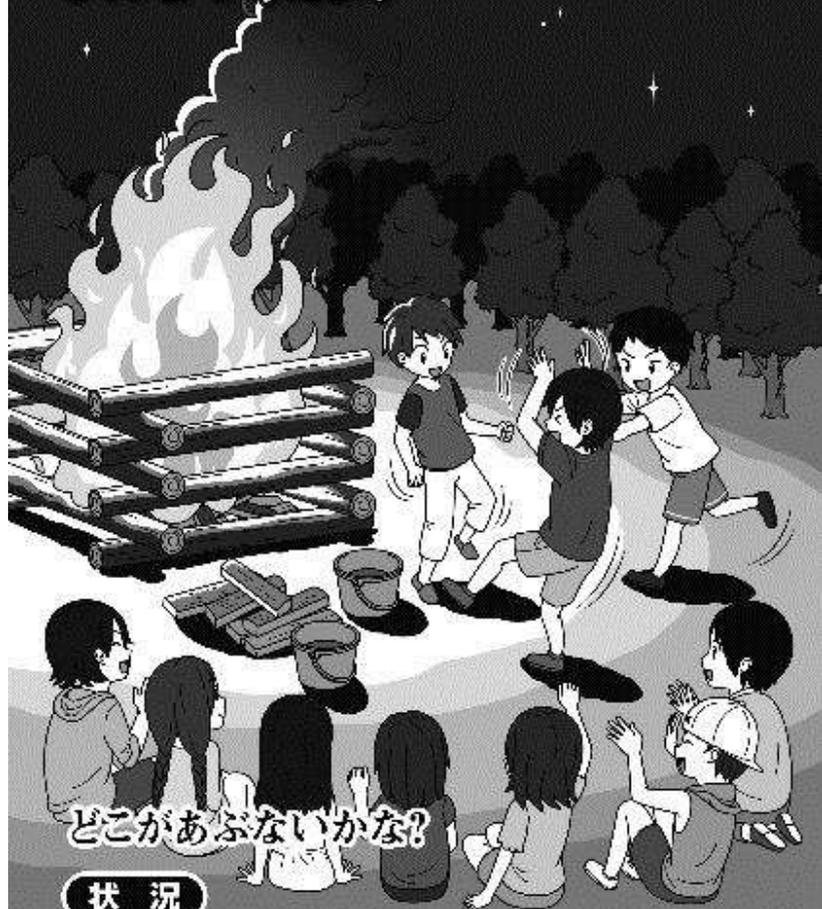
みんなで考えよう

応用下制トレーニングシート ⑫



みんなで考えよう

危険予知トレーニングシート⑩



キャンプファイヤーでスタンプをしています。

(リーダーのみなはキャンプファイヤー会社が買収した女子寮のボイラーをあげてGPTです)

みんなで考えよう

危険予知トレーニングシート ⑧



どこがあぶないかな？

状況

五連発の打ち上げ花火を上げようとしています。

指導者・育成者の心得

指導者・育成者として、子ども会活動のなかで、子どもの事故を未然に防ぎ安全を確保することを常に考えなければなりません。

そのためには、子ども会活動を行う前などに安全教育を行うことが必然です。

指導者・育成者の研修会などでも、プログラムの中に安全啓発教育を取り入れ、事故が起きた場合の対処の仕方、応急処置の方法も習得しておくことが大切です。

1 安全教育の基本は生命の尊重

安全教育の基となるのは、自分の命は他の何ものにも代えがたい地球よりもっと重い大事なものであること、更に、自分と同じように他人の命も大事なものであることを、すなわち、『生命を尊重することの大切さ』を教えることが重要であります。

2 活動の前に安全点検を十分に！！

事故を未然に防ぐには、指導者・育成者が活動となる場所の点検を真剣に行い、危険個所の改善などに努めることが大切です。

また、ハイキングや、キャンプなど日常の活動から離れた場所では、事前調査(下見)を行い、危険場所への気の配り方、目の付け所を十分に徹底することが、事故防止に役立つものとなります。

3 多くの目で見守ること

子ども会に関わる会員の父母や地域社会の方々に、子ども会活動への理解や支援協力のための情報を提供しましょう。特に事故に対してどのように対処しているかを折にふれて説明し、事故対策に理解と支援が得られるようにする必要があります。

このような配慮を通して、会員の父母として、子どもに対し、係りの指示に従うように注意し、更に活動に応じた服装、持ち物など活動に関する理解が深まり、事故防止への推進につながります。

4 プログラムの内容を再点検

活動プログラムを作成するとき、無理な日程や時間ではなく、ゆとりをもったプログラムを立案すること。そして参加する人たちが、活動内容を充分理解することが大切です。

5 活動に相応しい服装と集団行動の実施

子ども会では、スポーツや、ハイキング・キャンプなどの野外活動が企画されます。その活動に相応しい服装の指導が大切です。よくキャンプなどで虫にさされたり、やけどをする場合があります。街中と状況が異なるので、それを見越した服装を選びましょう。

また、オリエンテーリングや追跡ハイク、自由時間中でも単独行動はせず、必ず数人で行動するように指導することが大切です。

6 行事実施前の健康調査と救急箱の点検・その他の調査
行事に参加する子どもの健康状態を把握しておくことが大切です。時に熱があったり、腹痛があるのに参加してしまう子どももいます。『安全カード』を活用しましょう(58ページ参照)。また、救急箱の点検は毎回必要です。薬も有効期限がありますし、行事の時期・場所・内容により何の薬を用意したらいいかなど気を配りましょう。

その他、緊急事態が起きたときの連絡方法や、近隣の病院・休日当番医など、事前に調べておくことも大切です。

7 道義的責任の所在をはっきりさせる

行事を実施する案内書・要項には必ず参加者が守らなくてはならない注意事項を記載し、行動前に全員で注意事項を復唱させるように指導しましょう。

注意事項を守らず起きた事故の責任は、事故を起こした本人が負うのだということを徹底させることが大切です。

また、指導者・育成者の役割分担を明確にしておきます。

万が一、事故が発生したときの法的責任は、主催した責任者が負うこととなります。

活動のチェックポイント

1 活動計画について点検及び確認事項

- ① 目的・目標
- ② 日時
- ③ 参加対象・人数
- ④ 場所(集合・実施・解散)
- ⑤ 利用交通機関
- ⑥ 活動の内容・方法
- ⑦ 役割分担
- ⑧ 経費

・参加者の年齢・能力からみて、活動内容、人員、時間、方法などが適切か。

・参加者の健康状態、服装や持ち物は適切か。

・活動に使用する場所の下見を行い、安全であるかの確認。

2 スポーツ活動の実施

・会場予定地について、危険な個所がないかを事前に調査。

・当日の天候に注意する。

・当日参加者の健康チェックを行う。

・スポーツ前には、準備体操を行う。

・責任者は必ず現場で監視する。

・安全係りの配置・・・健康管理は十分か。

3 交通安全への心かけ

※自転車での移動

- ・親の許可を得てから、自転車を使用。
- ・乗る前には、ブレーキやハンドルなど安全点検を行う。
- ・ヘルメットなど着用

全てにおいて『飛び出し』が危険です。交通ルールやマナーを守り、安全確認を心がけることを普段から話し合しましょう。

4 指導者・育成者の自己管理

- ・昔やったから、このくらいできるという自己過信。
- ・良いところを見せてやろうと誇らしげになる時。
- ・疲労をかくして無理をしない。

5 万一の事故に備えて

- ・応急処置の練習をしておきましょう。
- ・緊急を要する場合の対策を取れるようにしましょう。
- ・現地に近い病院の所在地、電話番号を調べておきましょう。

※地元消防署等で開催される、救急救命講座を受講しましょう！

応急措置の心得

◎心停止・呼吸停止時の処置

心臓や呼吸が止まった人の救急救命処置は、時間とのたたかになる。10分が経過する前に、命が助かる可能性が急激に低下する。迅速に119番通報、胸骨圧迫とAEDの使用が必要になる。

救助しなければならない場面に遭遇した時は、1人だけの時以外はできる限り他の人の協力を得て、落ち着いて行動することが大切である。

AED(Automated External Defibrillator: 自動体外式除細動器)は、心臓が停止した時、呼吸が停止した時、救急処置に用いられる器械である。心臓の心室が筋肉けいれんを起こし、小刻みに震えて全身に血液を送ることができない状態(心室細動)になっている時に、AEDを使って電気ショックを与え、心臓の働きを正常なリズムに戻すために用いられる。学校や公園など、どこにAEDがあるか普段から確認することが大切である。

年齢区分における心肺蘇生法の手法の違い

対象	圧迫法	圧迫の強さ	テンポ	心肺蘇生	圧迫位置
成人	両手	4~5 cm	約 100 回/分	圧迫と人工呼吸 30: 2	胸骨の下 半分
小児	片手	胸の厚さの 1/3 の深さ		約 120 回/分	5:1
乳児	2 指				

電極パッドを貼る前の注意事項

1) 水や汗など

除細動を行う時に、水や汗などで患者の身体が濡れていると、電流が濡れた皮膚を伝わってしまうため、エネルギーが心臓に伝わらない。また、救助者に感電する可能性があるため、電極パッドを貼る前にタオルなどでしっかりと拭き取る。

2) 貼付剤など

胸部の貼付剤(貼り薬)などは、電流が心臓に伝わるのを妨げることがある。また、発火による熱傷を起こすことがあるので、貼付剤の上に電極パッドを貼ってはいけない。パッドを貼る前に貼付剤をはがす。

3) 貴金属類など

ネックレスなどの貴金属は、熱傷やAEDの故障の原因になるので外す。外すのに時間がかかる時は、できる限りパッドから離して除細動を行う。

4) 心臓ペースメーカーなど

心臓ペースメーカーなどを設置している場合は、皮下のこぶのような出っ張りから少し離して(2.5cm～3cm)、電極パッドを貼り付ける。

AEDを用いた心肺蘇生

周りにいる人が直ちに救急救命を行う。

〈傷病者の発見〉



〈周囲の安全確認〉

まずは自分の安全を確保し、周囲の安全をよく確認してから、倒れている人に近づく。

〈反応の確認〉

軽く肩を叩きながら、耳元で「わかりますか？」などと声をかけて意識を確認する。返事や身体の反応がなければ、「意識はない」と判断する。



反応あり

反応なし



回復体位にして様子を見る。

人を集める	大声で助けを求める
医者を探す	「だれかきてください」
119番通報	「あなたは119番、救急車を呼んでください」
AEDを依頼	「あなたはAEDを持ってきてください」
◎周りに人がいない場合は自分一人で行う	



〈気道の確保、呼吸の確認〉へ

〈気道の確保、呼吸の確認〉

気道の確保では、額を押さえながら、もう一方の手で指先をあごの先に当てて持ち上げる。空気の通り道を確保する。

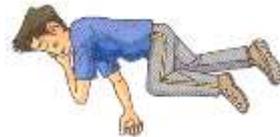


普段どおりの息なし



鼻をふさぎ、人工呼吸を約1秒間、2回行う。その際、傷病者の胸が持ち上がるのを確認する。

普段どおりの息あり



回復体位



人工呼吸がためらわれたり、動作が遅れたりする時は、人工呼吸を省略して心肺蘇生に進む。



心肺蘇生(小児)は次頁へ。(成人)は次々頁へ。

心肺蘇生 (Cardio Pulmonary Resuscitation : CPR) は、呼吸が止まり心臓も動いていないとみられる傷病者に対して行う。人の脳は、呼吸が停止してから4～6分で、低酸素により脳の回復は困難になる。2分以内に心肺蘇生 (CPR) が開始された場合は、救命率は90%程度であるが、4分では50%とされている。

【胸部圧迫】(心臓マッサージ)

①小児



(1) 圧迫位置

- 乳頭と乳頭の真ん中

(2) 圧迫の仕方

- 片手で圧迫する。
- 胸の厚さの約1/3 くぼむまで押し下げる。
- 圧迫は、1分間に約120回のリズムで行う。

(3) 心肺蘇生法

- 胸骨圧迫5回ごとに、人工呼吸1回のリズムで続ける。



AEDの操作へ

②成人



(1) 圧迫位置

- 胸骨の下半分

(2) 圧迫の仕方

- 両手を重ね、肘をまっすぐ伸ばす。
- 胸が4～5cm沈みこむのを目安に強く押す。
- 圧迫は、1分間に約100回のリズムで行う。

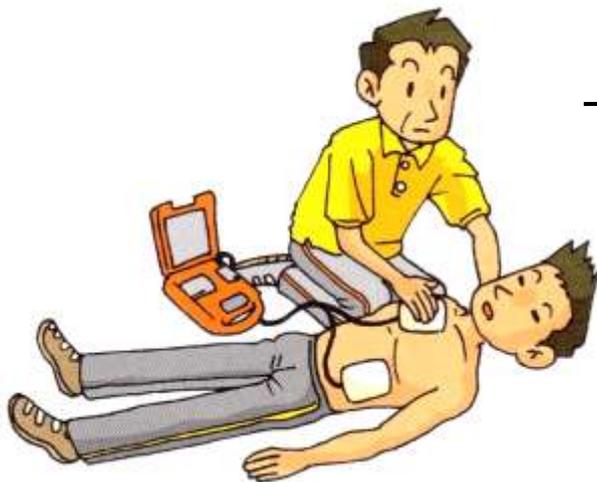
(3) 心肺蘇生法

- 胸骨圧迫30回ごとに、人工呼吸2回のリズムで続ける。



AEDの操作へ

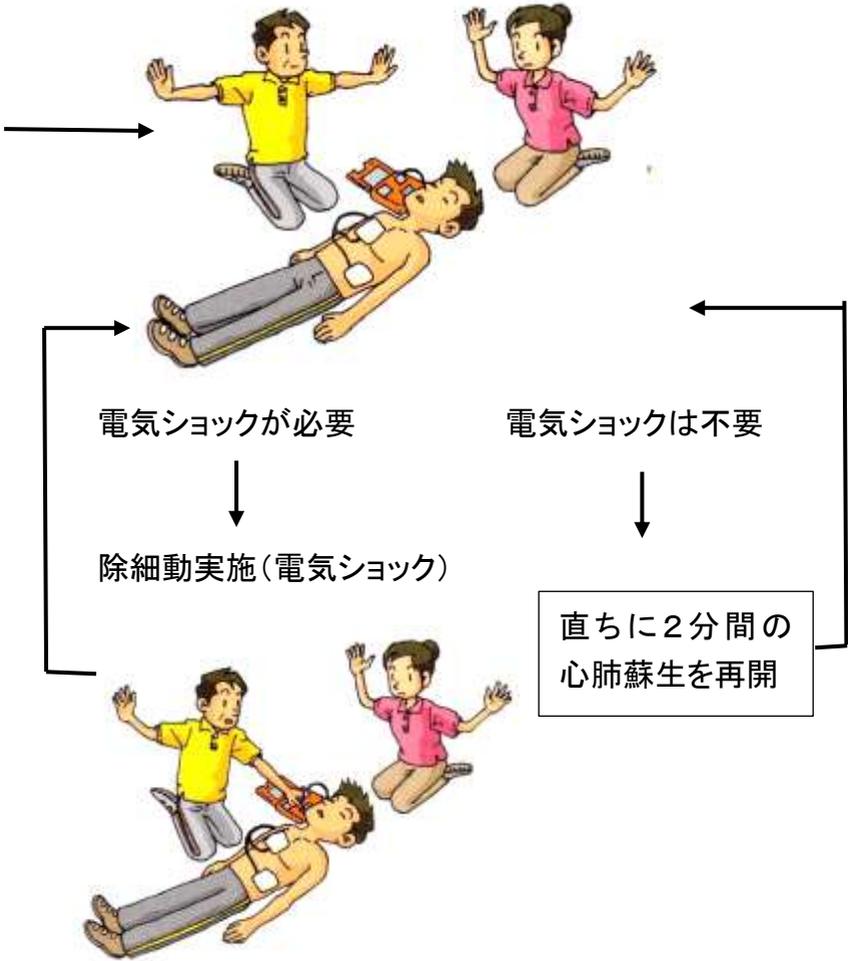
AEDの操作



- (1) 電源をONにする。
- (2) AEDのメッセージに従う。
 - 電極パッド
 - 装着など

※小児には小児用の電極パッドを使用する。ない場合は、成人用パッドで代用する。

傷病者に触れない(心電図の解析)



※救急隊に引き継ぐか、何らかの応答や変化があるか、普段どおりの息をし始めるまで続ける。

◎ 応急手当

ケガ人や病人が出たら近くのメンバーは、迅速、冷静、的確な行動をとります。

医師に掛かるまでの間、しておきたい応急手当を学び事故に備えます。

・骨折、捻挫をした→ 骨折が疑われたら、とにかく固定して動かさない。そして早急に病院へ。

① 無闇に動かさず、どこが痛いかな尋ねる。
特に、痛い場所を動かすと、折れた骨で血管や筋肉を傷つけ重症化させてしまう可能性があります。

② 骨折場所に副子(副え木)をあてる。
板状の物や、近くにある傘・雑誌・ダンボール、指ならば割り箸やペンなどを利用しても良い。表面が硬い板などを使う場合は、タオルなどクッションになる物を患部との間に挟む。

③ 包帯や、なければネクタイやストッキング、ハンカチなどを臨機応変に利用して患部を固定する。

・熱中症になった→ ① 風通しが良く、涼しい日陰へ連れて行き安静。

② 身体に水をかけたり、水で濡らしたタオルで全身を冷やす。(うちわや扇風

機などによる送風も良い)

意識がしっかりしている場合は、上記の応急処置の他に冷たい水を飲ませます。発汗がひどい時には、スポーツドリンクか、食塩水(水500ミリリットルに食塩5グラム)を与えます。

注：身体を冷やし過ぎると低体温となるので注意が必要です。震えたり、唇が暗紫色になったら保温をしましょう。

・ナイフで指を切った→ ①流水で傷口を流す⇒雑菌や汚れを流しきれいにする

②胸より上に上げぎゅっと握る
⇒圧迫して止血(5分くらい)

③バンソウコか病院⇒止血し冷静になってから判断

(思ったより、深く傷が入っている、ぱっくりとおおきく傷が開いている、痛みが酷い時は、迷わず、病院へ行く。

行く病院は、外科、形成外科、整形外科)

・ヤケドをした→ 冷たい水ですぐに冷やします。

(衣服を着ている部分にやけどを負った場合は、衣服を着たまま流水で冷やします。無理に衣服を脱ごうとすると、やけど部分の皮膚も一緒にがれてしまう可能性があります)

・ハチに刺された→ ①刺された現場からすぐ数十メートル離れる

②刺された傷口を流水でよく洗い流し

て冷やす

③ハチの針が残っている場合は抜く
(抗ヒスタミン剤を含むステロイド軟膏などがあれば塗布する)

④ 病院へ行く

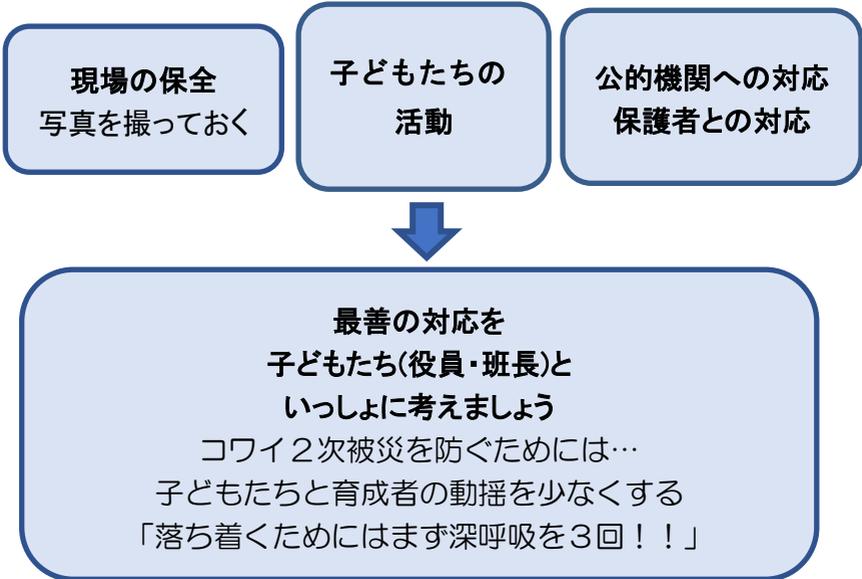
・耳に虫が入った→ ベビーオイル・オリーブオイルなどを耳に数滴たらして窒息死させる。オイルに浮かんで見えるところまで出てきたら、ピンセットなどで静かに取り除きます。

(耳たぶを引っ張り、タバコの煙を吹きかけてみる。虫が煙を嫌って出てくる可能性があります。また、懐中電灯の光を耳の穴にあててみる。明るい方へと誘われる習性のある虫ならば、自分から出てくる可能性があります)

※いずれも無理に取り除こうとせず、上記の方法で取れなければ耳鼻咽喉科で処置してもらってください。

事故はいつ起こるかわかりません！だから、日頃から一人一人が安全な行動を心がけて活動しよう！！そして自分自身が他のメンバーの見本になれるようにね。

事故が起きた時に…



判断条件

(被災した子どもの状況、天候、場所、活動の内容、人手はあるか、子どもたちの状況、地域の状況、場所、交通手段、他)

- ◎活動を続ける
- ◎活動を変更する
- ◎活動を中止する

発生した事故を「どうして起きたのか？どうすれば防げたのか？」考えることで、子どもたちにも安全能力(知的・情緒的・体力的対応の力)が身につきます。

安全のための心得

(活動の始まりから終わりまで)

- ・活動の目的を会員にしっかり伝えてから行動しましょう。
- ・参加者の健康管理を的確にしましょう。
- ・活動の場の安全を確認しましょう。
- ・道路を歩行するときは、前後、中間に指導者・育成者が付きましょう。
- ・持ち物や服装など行事開始の前に点検しましょう。
- ・途中で計画を変更したり、危険が予測される活動の前には、必ず全員を集合させ、人員を確認してから説明をしましょう。
- ・活動中に怪我、病人が発生したときは、適切に処置し、医師や関係者に至急連絡をしましょう。
- ・行事の解散前には必ず人員の確認をしましょう。
- ・活動、行事の記録は必ず残して次の行事の参考にしましょう。
- ・子どもたちと共に活動の振り返りを行いましょう。

必ず子どもたちを観察しましょう！

